

◎ 美術館情報

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの美術館等で、臨時休館やイベントの休止、展覧会の中止や開催期間の変更、および入館方法等が変更になっています。

状況が日々変動しているため、各施設の公式ホームページなどで最新の情報をご確認ください。

1. 愛知県陶磁美術館【愛知・瀬戸】 (https://www.pref.aichi.jp/touji/exhibition/2023/t_kougei/index.html)

4月15日(土)～6月18日(日)

特別展: 日本工芸会陶芸部会 50周年記念展 未来へつなぐ陶芸—伝統工芸のチカラ—

日本の伝統陶芸の歴史をつつてきた日本工芸会陶芸部会の活動が2022年に50周年を迎えます。その陶芸部会の母体となる日本工芸会は、1950年に施行された文化財保護法による「無形」＝「技」の保存と活用を目的とした考え方に同調した工芸家たちにより1955年に発足しました。その前年となる1954年には文化財保護委員会の主催で「第1回無形文化財 日本伝統工芸展」が開催され、今日に繋がる日本伝統工芸展の歴史をスタートさせています。本展では、伝統陶芸を支えてきた日本工芸会陶芸部会の活動を振り返りつつ、さらにはこれからの伝統陶芸の歩みを考える機会とし、歴代の人間国宝(陶芸、個人)の代表作から新進作家の最新作までを紹介します。



未来へつなぐ陶芸
伝統工芸のチカラ
愛知県陶磁美術館



2. 京都市京セラ美術館【京都・左京区】 (<https://kyotocity-kyocera.museum/exhibition/20230309-20230604>)

3月9日(木)～6月4日(日)

特別展: 跳躍するつくり手たち 人と自然の未来を見つめるアート、デザイン、テクノロジー



人と自然の未来を見つめるアート、デザイン、テクノロジー
特別展 跳躍するつくり手たち
2023.3.9 THU → 6.4 SUN

地球環境への意識の高まりやテクノロジーの進化など、人間社会のあり方が大きく変化する現代は、新たな視点が求められる時代だからこそ、人間こそがなしうることへの重要性が改めて問われています。本展では、企画・監修者にデザインを軸としてリサーチと思索を重ねてきた川上典李子氏(武蔵野美術大学客員教授)を迎え、人間や地球の歴史を意識しながら、柔軟な発想でめざましい活動を展開する日本のアート、デザイン分野の気鋭の20作家(個人・チーム)を取り上げます。1970年代、1980年代生まれを中心とした参加作家による新作や初公開作品を多数紹介する本展では、過去と未来、自然と人工、情報環境と実社会といったさまざまな関係性を軽やかにつないで再解釈する彼らの作品や活動から、世界が直面する激動の時代に求められる「創造へ向かう跳躍するエネルギー」が鮮やかに浮かび上がることでしょう。

3. 大分県立美術館【大分・大分】 (<https://www.opam.jp/exhibitions/detail/910>)

4月1日(土)～5月28日(日)

企画展: デミタスカップの愉しみ

濃いコーヒーを飲むための小さなコーヒーカップ、デミタス。本展では2,000点以上のデミタスカップを所蔵する村上和美さんのコレクションから約380点を精選しご紹介します。当時のデザインの流行を反映させた作品から、繊細な装飾、大胆な意匠を凝らした作品まで、小さなカップに凝縮された華麗な美しさをご堪能ください。

